公益財団法人倶進会 2017年度 第 118 回 公開セミナー

2017度 第2回目のセミナー

《日 時》
2017年7月8日（土）13：00～15：00
《場 所》
公益財団法人倶進会事務所（営団地下鉄丸の内線・四谷三丁目駅より徒歩3分）
新宿区左門町9番地 玉盛ビル302号
TEL：03－3341－4190
《題 目》
『情報化社会の倫理的想像力』
《発題者》
小原 信 氏 （青山学院大学名誉教授）
《内 容》
きれいに編集された画面を見慣れると、日常の「現実」は色褪せてみえます。それが「幻実」だとわかっているのに、電車のなかもオフィスや図書館のなかでも、即答を迫る通話に忙殺されるひとが増えています。
そこに居るのに居ないひとがふえ、居ないひととも連絡をとりあうチャットには、生きた「会話」はありません。もともとそこは、いたみや不安がない安全地帯のはずだったのに、たえまない連絡と更新で、食事も睡眠も浸食され、会話も集中力も切断されっぱなし。
友でない者を友のようにあつかう欺瞞には、いらだちや演技ばかりか、「いっしょにいてもひとり」状態を生み、老いや死をないかのようにあつかう時代。
孤独や退屈は深まり、共感力も内省力も劣化していくなか、新たな「倫理的想像力」の育成が要請されれる所以です。
[講師略歴]：
小原 信（おはら しん）1936 年神戸市生まれ。國際基督教大、東大大学院を経て、1966 年イエール大学より、キルケゴール研究による哲学博士号(Ph.D.）取得。1970 年日本倫理学会賞の和辻哲郎賞を受賞。
人間的な現実に即した実存的な倫理を模索し、状況倫理、情報倫理、生命倫理、ポストメディア論を担当。
現在、青山学院大学名誉教授。主要著書に『状況倫理の可能性』、『評伝 内村鑑三』、『ビューティフル・デス：有終の倫理学』、『i モード社会の＜われとわれわれ＞』(中公叢書)：『孤独と連帯』、『われとわれわれ』（中公新書)。ほかに『ファンタジーの発想』、『シングル・ルームの生き方』(新潮選書)：『退屈の時代』、『時間意識の構造』、『内村鑑三』（PHP 研究所）：『ホスピス』(ちくま新書)、『人間の人間らしさ』、『いのちの継承』(新教新書)：『倫理私想』、『あかさたな：哲学的散文詩』、『あなたはひとりではない』(以文社)：『自分史心得帳』（教文館)、『ニューヘヴンの冬』（文藝春秋）がある。

『情報化社会の倫理的想像力』

倶進会第 118 回セミナー 2017・7・8　　小原　信

0　むかし電話はご近所さんと共有で、(呼)と書いた名刺もありました。

1　画面のなかの情報と事実の混在。どれがオリジナルとコピーがわかりません。

2　話題先行。また次の話題が次つぎにやって来て、ともかくいそがしい。

3　うそ(幻実)だとわかっていても、つい騙されてしまう映像

4　倫理的規範から解放された世界。

5　途中の経過(苦労)なしに答だけを求める。記録はあるが記憶がない。

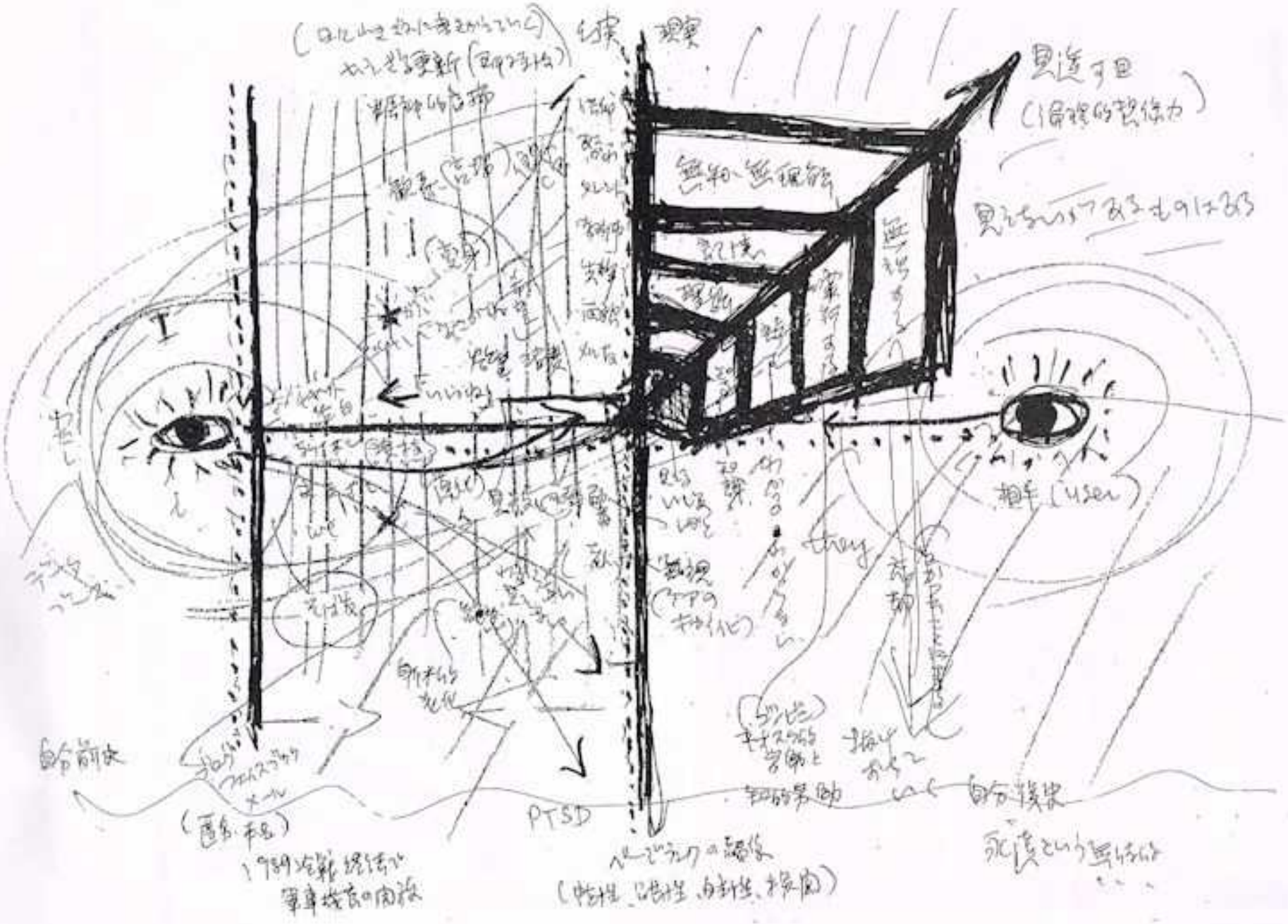
6　見ているだけの感性は、日々麻痺し、劣化し、神経は疲弊していきます。

7　相手はただの user であり、人格(person)ではない。主役はだれでしょう。

8　共通の「大きな物語」がない、素直な小人たち。

9　知らないことは、空白ではありません。見えなくてもあるものがあります。

むすび　たましいの看取り(Seelsorger)



現実
無知・無理解
見えないけあるものはある
相手 (user)
they
自分前史
自分後史
PTSD
1989冷戦経済で
軍事機密の関係
ベーデックの編集
(性性、性性、自動性、検閲)